

TOPICS  
4

## トピックス…④

平成28年の農業景況D Iが  
最高値を更新

日本政策金融公庫・農林水産事業本部は、スーパーL資金と農業改良資金の融資先である担い手農業者を対象として実施した「平成28年下半期農業景況調査」（平成29年1月）で、平成28年通年の景況D Iが過去最高値だった前年をさらに上回り、平成8年の同調査開始以来の最高値を更新したことを明らかにした。しかし、景況が好調を維持する一方で、深刻な労働力不足が、農業経営の成長を阻害することが懸念されていることもわかった。

## 農業景況は好調を維持

景況D Iは、前年と比較して景況が「良くなった（良くなる）」という意見の占める比率から、「悪くなった（悪くなる）」の比率を差し引いたものである。表に示したように、農業全体の平成28年景況D Iは、過去最高だった27年（16.8）から3.2ポイント上昇し20.0となった。その背景としては、販売単価D Iが13.1から26.1に、生産コストD Iが▲44.7から▲19.1に大きく改善したことがある。その結果、収支D Iが14.2から16.7に、資金繰りD Iが7.6から15.5へと上昇したことが経営判断を明るくしたものと言える。

業種別にみると、配合飼料価格が下降基調で推移する中、平成27年に引き続き販売単価が好調なことから、酪農（北海道：55.9 → 57.6、都府県：29.3 → 52.2）と肉用牛（48.5 → 50.3）の景況D Iが高い水準を維持している。また、養豚（48.8 → 26.2）、採卵鶏（71.0 → 40.8）、ブロイラー（51.9 → 27.4）は販売単価の下落により収支が悪化しているものの、資金繰りは安定しており、D I値は高い水準を維持した。

このほか、販売単価が上昇し、燃料価格などが低い水準で推移したことにより、施設野菜（20.3 → 26.3）や茶（▲53.1 → 11.1）、果樹（11.5 → 25.6）、施設花き（▲5.9 → 11.8）の収支や資金繰りが改善し、D I値が上昇した。なお、露地野菜（14.3 → 14.7）は、天候不順により一部産地の生産量が減少したものの、市場単価が上昇し、全体としてD Iは横ばいに推移した。

一方、稲作は北海道（20.1 → ▲4.9）と都府県（▲3.8 → 23.6）とで明暗が分かれた。都府県で豊作基調かつ販売単価が上昇した中、北海道は過去5年より作況が低

下したことに加え、高単価品種が思うように価格が上がらなかったことが背景にある。また、畑作（35.2 → ▲17.6）は台風被害等で収支や資金繰りが悪化し、D I値が大幅に低下した。きのこ（15.2 → 1.1）は、供給過剰で販売単価が下落しD Iが悪化した。

## 労働力不足が経営成長に影響

平成29年の農業全体の景況D I見通しは、28年（20.0）よりも11.3ポイント低下し、8.7となった。業種別にみると、28年と比べて、畜産分野の業種全てで悪化し、酪農（北海道：57.6 → 31.5、都府県52.2 → 16.8）、肉用牛（50.3 → 1.9）、養豚（26.2 → 6.2）、採卵鶏（40.8 → ▲29.6）、ブロイラー（27.4 → 16.2）と大幅に悪化する見通しである。素牛価格等の高値での推移が見込まれる中、販売単価の先行きが不透明なことから、慎重な判断になったとみられる。また、稲作（北海道：▲4.9 → ▲11.8、都府県：23.6 → 4.9）や茶（11.1 → ▲3.1）も悪化する見通しである。

一方、施設野菜（26.3 → 24.0）や果樹（25.6 → 24.1）は横ばい、畑作（▲17.6 → 4.6）や露地野菜（14.7 → 18.9）、施設花き（11.8 → 20.9）、きのこ（1.1 → 18.1）は改善の見通しである。

このような状況の中、平成29年の設備投資見込みD Iは、28年（▲12.8）から16.4ポイント上昇して3.6となり、通年調査として初のプラス値となった。しかし、平成28年の雇用状況D Iは、27年（▲26.3）から7.3ポイント低下して▲33.6となった。景況が好調を維持する一方で、わが国農業は深刻な労働力不足にあり、これが経営成長を阻害することが懸念されている。

表 業種別農業景況D Iの推移

	平成19年 実績	20年 実績	21年 実績	22年 実績	23年 実績	24年 実績	25年 実績	26年 実績	27年 実績	28年 実績	29年 見通し
農業全体	▲18.0	▲6.6	▲17.4	▲25.2	▲7.9	13.2	▲1.4	▲33.7	16.8	20.0	8.7
稲作（北海道）	▲16.0	24.5	▲29.0	▲36.9	43.5	43.9	▲4.2	▲67.2	20.1	▲4.9	▲11.8
稲作（都府県）	▲21.4	9.1	▲11.7	▲55.5	13.1	36.2	▲10.2	▲71.0	▲3.8	23.6	4.9
畑作	▲36.3	2.8	▲14.5	▲32.2	▲19.1	1.6	▲27.6	▲5.3	35.2	▲17.6	4.6
露地野菜	▲3.1	▲5.6	▲15.4	▲2.0	▲14.0	6.7	15.1	▲15.7	14.3	14.7	18.9
施設野菜	▲4.9	▲10.4	▲23.8	▲6.9	▲15.7	19.9	15.6	▲8.4	20.3	26.3	24.0
茶	▲14.3	▲32.4	▲54.2	▲32.1	▲47.3	▲12.8	▲44.8	▲55.0	▲53.1	11.1	▲3.1
果樹	▲4.9	▲13.0	▲34.1	▲0.9	▲11.7	16.0	6.3	▲12.7	11.5	25.6	24.1
施設花き	▲11.7	▲33.5	▲29.7	▲20.5	▲38.8	▲8.0	▲2.8	▲34.4	▲5.9	11.8	20.9
きのこ	8.4	9.3	▲20.4	▲51.8	▲47.1	▲19.6	4.7	▲20.7	15.2	1.1	18.1
酪農（北海道）	▲30.5	▲10.5	13.2	▲37.8	▲26.9	▲2.2	▲9.4	▲4.1	55.9	57.6	31.5
酪農（都府県）	▲45.0	▲32.6	21.8	0.0	▲24.2	0.0	▲23.8	▲30.9	29.3	52.2	16.8
肉用牛	▲14.1	▲33.4	▲20.7	▲7.4	▲47.4	8.3	20.5	▲1.2	48.5	50.3	1.9
養豚	16.9	▲28.0	▲52.4	15.5	▲6.2	▲38.1	43.6	67.5	48.8	26.2	6.2
採卵鶏	▲33.9	▲4.8	▲18.1	14.1	8.4	▲40.6	43.9	28.6	71.0	40.8	▲29.6
ブロイラー	-	-	-	▲20.0	▲6.3	▲1.3	▲22.4	10.4	51.9	27.4	16.2

資料：「平成28年下半期農業景況調査」（日本政策金融公庫 農林水産事業本部）